

【第6回アフリカ開発会議サイドイベント】

市場志向型農業振興（SHEP）アプローチ 広域ワークショップ — 「儲かる農業」を目指した小規模農家の能力向上を促進する取り組み—

国際協力機構（JICA）は、8月25日、ナイロビのパナフリックホテルにて、市場志向型農業振興（SHEP: Smallholder Horticulture Empowerment & Promotion）アプローチをテーマに、ワークショップを開催しました。レソト、マラウイ、ジンバブエの農業省次官を含め、計17か国のアフリカ地域各国行政官、民間企業関係者を迎え、150名を超える関係者が参加しました。

2013年に開催されたTICAD Vを契機に、「儲かる農業」に向けた小規模園芸農家の能力向上を促進するための取り組みとして、JICAはSHEPアプローチを進めています。2014年から現在まで、アフリカ23か国を対象に日本やケニアにおける研修を実施し、帰国研修員たちが中心となって、アフリカ各国での実践を進めています。本サイドイベントは、過去2年半の活動の成果と各国におけるSHEPアプローチの進捗状況や成果・課題を学び合う機会として開催されました。また、より幅広い層の人々にSHEPアプローチを理解してもらうために開発された新しい普及・広報ツールである「SHEPゲーム」（コンピュータゲーム及びスマートフォンアプリ）のお披露目を行う等、今後のさらなる同アプローチの推進に向けたJICAの各種取り組みが示されました。

本サイドイベントでは、まず、SHEPアプローチ発祥の地であるケニアより、農業・畜産・水産省次官が開会スピーチを行い、ケニア政府による同アプローチ推進の状況と今後の同アプローチの普及拡大に向けた展望について述べました。

次に、SHEPアプローチを考案したJICAの相川次郎国際協力専門員（2016年3月より、南アフリカ共和国に、小規模園芸農民組織強化アドバイザーとして派遣中）より、同アプローチが生まれた背景と同アプローチのコンセプト概要についての発表と共に、これまでケニア及びアフリカ各国への同アプローチ推進に尽力してきたケニア行政官への賛辞の言葉が述べられました。続いて、SHEPアプローチのコンセプトの一端を成すものとして重要視される心理学の観点から調査を行った有限会社IMGの首藤コンサルタントより、ケニアのSHEPアプローチにおいて活用されている「動機付け理論」の概要とケニアで同理論に基づき組み立てられた具体的な活動の紹介について、発表がありました。

その後、ケニアで実施中の、SHEPアプローチ推進のための技術協力プロジェクト¹のナショナルプロジェクトコーディネーターより、対象となった農家グループ代表と共に、ケニアでの取り組みの成果や農家レベルでの実際の変化について発表がありました。また、日本での研修に参加したマラウイの代表者は、帰国後の2年間の自国でのパイロット活動により、どのような成果が出たか（家の改修、バイク購入、教育費への充当等）について報告しました。さらに、セネガルより、今後の現場での具体的な取り組み予定について発表されました。

¹ ケニア国地方分権下における小規模園芸農民組織強化・振興プロジェクト（SHEP PLUS）



相川専門家とケニアのカウンターパートら



マラウイ行政官の発表

上記の様々な発表の後、質疑応答の場では、引き続きアフリカ各国でSHEPアプローチの取り組みをさらに推進していくためには、どのような点に留意する必要があるかということを中心として、活発な意見交換がなされました。そして、アフリカ各国政府を代表して登壇したレソト、マラウイ、ジンバブエ農業省次官からは、自国の小規模農家支援のために、既存の農業普及プログラムに相互補完的に取り込むことが可能な同アプローチを引き続き強力に推進していきたいとの決意が表明されました。

その後、相川次郎国際協力専門員より、今後のSHEPアプローチ推進に向けたJICAの各種取り組みとして、①日本における研修とその後の技術支援の継続、②学術的観点からの分析、③同アプローチ推進のための普及教材開発等が示され、特に③に関し、IT媒体（コンピュータ及びスマートフォン）を活用した新しい農業普及教材であるSHEPゲーム「Fun Fun Farming!」が紹介されました。今後、SHEPアプローチの各国での活用範囲が広がるにつれ、日本での研修を受けた行政官以外にも広めることが可能なツールとして、本ゲームの活用が期待されます。

最後に、加藤理事より閉会挨拶があり、ケニアと日本との協同の取り組みにより生まれたSHEPアプローチが、農業を魅力的でカッコいい職業にしていく上でも、非常に有効なアプローチであり、今後も引き続き、アフリカの人々自身の手により、各国の状況にあった形で、また各国で進む各種農業支援プログラムを補完する形で浸透することにより、小規模農家の生計向上に繋がっていくことへの期待が示されました。

JICAは、今後とも小規模農家の生計向上にSHEPに向けた持続可能な取り組みとして、「儲かる農業」への取り組み、SHEPアプローチを進めていきます。

■本イベントの登壇者

【発表者】

- ・相川次郎 JICA国際協力専門員
- ・首藤久美子 有限会社IMGコンサルタント
- ・フランシスカ・マレンゲ ケニア農業・畜産・水産省 SHEP PLUS（ケニア地方分権下における小規模園芸農民組織強化プロジェクト）ナショナルプロジェクトコーディネーター
- ・ピアソン・イサク・ジャシ・ソコ マラウイ農業・灌漑・水資源開発省チーフアグリビジネスマネージャー
- ・モモドウ・ケベ セネガル農業省園芸局

【司会】

- ・ジョンソン イルング ワイタカ農業局長 ケニア農業・畜産・水産省

【開会・閉会挨拶】

- ・リチャード・レシアン・レシヤンベ ケニア農業・畜産・水産省事務次官（開会挨拶）
- ・加藤宏 JICA理事（閉会挨拶）